

【目的】本研究は、高齢化のすすむ新潟県十日町において、高齢者をGPSで追跡することで、物理的・社会的環境と行動パターンがどのように認知症と関連するのかを明らかにすることを目的に行った。

【方法】新潟県十日町において、65歳以上の要介護状態にない全数にアプローチし、アンケート調査及びGPSを用いて位置情報を連続的に測定・記録することで、参加者が地域のどのような場所にとどのような時間帯でどの程度過ごしているのかを把握した。そして得られた500人のデータを地図上のマッピングし、個人レベルの行動パターンを客観的に観察した。

【結果】本研究での参加者は男性249名、女性278名の計527名であった。GPSは1週間装着してもらうことができ、その動きには個人によって大きな違いがあることがわかった。今後はさらに解析を進め、環境要因と実際の行動エリアが認知機能をどの程度説明するのかを明らかにしていきたい。

参加者の行動範囲例

